

特別展のご案内

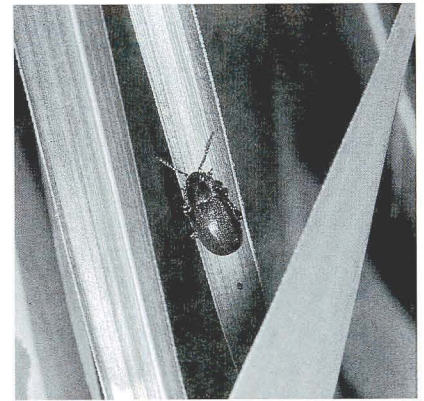
「追われる生きものたち」—神奈川県レッドデータ調査が語るもの—

期日：9月23日(月)まで開催中(開催中、9月16日、23日を除く毎週月曜日休館)

平成4年度から6年度にかけて実施した「神奈川県レッドデータ生物調査」を基に、神奈川県内から姿を消したり、生存が危うくなりつつある生きものたち(レッドデータ生物)を紹介し、その衰退の理由も探ります。

開催中の日曜日と祝日の午後1時30分から会場で当館学芸員が展示解説をします。

特別展観覧料 20歳以上：200円/20歳未満・学生：100円/高校生以下・65歳以上：無料



オオリハマシ。神奈川県では仙石原湿原にだけみられる絶滅危惧種(レッドデータ生物)。

催し物のご案内 (9~11月)

観察会・講座等

1. 野外観察「磯の動物ウォッチング」[真鶴町]
日時：9月14日(土) 10:00~15:00
対象：小中学生とその保護者 50名(抽選)
募集：8月6日(火)~8月27日(火)
2. 研究テクニック講座「植物分類・生態講座」
(箱根の植物群落) [博物館・箱根町駒ヶ岳]
日時：[講義] 9月21日(土) 13:30~16:00; [観察] 22日(日) 10:00~15:00
対象：一般 40名(抽選)
募集：8月13日(火)~9月3日(火)
3. 野外観察「地形観察会—K O Z Uウォーキング—」 [小田原市国府津]
日時：10月10日(祝) 10:00~15:00
対象：小学生から一般 30名(抽選)
募集：9月3日(火)~9月24日(火)
4. 野外観察「きのこウォッチング」 [逗子市]
日時：10月12日(土) 10:00~15:00
対象：小中学生とその保護者 50名(抽選)
募集：9月3日(火)~9月24日(火)
5. 研究テクニック講座「図鑑を作ろう—魚編—」 [博物館実習実験室]
日時：10月13・20日(日) 9:30~16:00
対象：一般 10名(抽選)

- 募集：9月3日(火)~9月24日(火)
6. 野外観察「秋の植物ウォッチング」[愛川町]
日時：11月9日(土) 10:00~15:00
対象：小中学生とその保護者 50名(抽選)
募集：10月1日(火)~10月22日(火)

応募方法

往復はがきに参加行事名、参加代表者の住所、氏名、電話番号(連絡先)、参加する人全員の氏名と年齢(学年)を明記してお申し込みください。参加費は無料です。

身近な自然発見講座

—動植物の観察を中心として—
毎月第3水曜日に、博物館周辺での自然観察や館内での実習・実験をする身近な講座を開催しています。参加費は無料で、事前の申し込みはいりません。当日博物館正面玄関前にお集まりください。雨天の時は中止します。

対象：一般、講師：当館学芸員
持ちもの：筆記用具、ルーペ、昼食、雨具等
[第5回] 8月21日(水) 10:00~15:00
[第6回] 9月18日(水) 10:00~15:00
[第7回] 10月16日(水) 10:00~15:00

館の活動

平成8年度

- 4月17日 一般公開以来、入館者50万人達成
5月3日 野外観察「地形のみかた」【参加者：24名】 [小田原市石垣山一夜城歴史公園] (講師：当館学芸員 山下浩之・佐藤武宏・平田大二)
5月11日 野外観察「水辺の動物ウォッチング」【参加者：37名】 [松田町川音川] (講師当館学芸員 新井一政・瀬能 宏・荻部治紀)
5月15日 『自然科学のとびら』第2巻第2号(通巻5号)発行
5月15日 野外観察「身近な自然発見講座—動植物観察を中心として—」【参加者：27名】 [小田原市一夜城歴史公園] (講師：当館学芸員 新井一政・木場英久・勝山輝男)
5月18~5月19日 植物分類・生態講座「スゲ学入門」【参加者：18日38名、19日32名】 [博物館実習実験室・湯河原町] (講師：当館学芸員 勝山輝男・木場英久・田中徳久)
6月2日 自然科学講演会「先カンブリア時代の生きものたち—動物の起源と進化—」【参加者：79名】 [博物館講義室] (講師：麻布大学名誉教授 大森昌衛) 化石研究会との共催事業
6月8日 野外観察「地層ウォッチング」【参加者：27名】 [三浦半島荒崎海岸] (講師：当館学芸員 大島光春・山下浩之)
6月19日 野外観察「身近な自然発見講座—動植物観察を中心として—」【参加者：21名】 [小田原市長興山] (講師：当館学芸員 新井一政・勝山輝男・田中徳久)
7月7日・7月14日 研究テクニック講座「図鑑を作ろう—魚編—」【参加者：11名】 [博物館実習実験室] (講師：当館学芸員 瀬能 宏)
7月11日 神奈川県西部地域の博物館(園)長等意見交換会【参加者：21館園25名】
7月13日 野外観察「水辺の昆虫ウォッチング」【参加者：26名】 [箱根町仙石原] (講師：当館学芸員 荻部治紀・高桑正敏)

ライブラリー通信

フェアブルあれこれ

私たちはフェアブルといえば「昆虫記」と、条件反射的に覚えてしまっているようですが、実はそのほかにもいろいろな本を書いているのです。フェアブルの年譜を見ますと、40歳代以降、科学普及書や啓蒙書を次々に出版しているのがわかります。例えば、『初歩天文学』『初歩幾何学』『家畜の話』『地理入門』『農業算術』、ちょっと変わったところでは、『家事経済入門』『衛生保健』などというものもあります。『昆虫記』の第1巻が刊行されたのは、1879年4月3日、フェアブル55歳の時でした。第10巻が世に出たのは1907年、実に28年の歳月を必要としたのです。

私たちが「フェアブル=昆虫記」と思っているのは、『昆虫記』以外に翻訳されているものが、余りに少ないためではないでしょうか。実際、日本語に訳されている他の本には、『フェアブルの言葉』(新潮社)1942、『科学物語』(木鶏社)1983、『フェアブル植物記』(平凡社)1984、『ジャン・アンリ・フェアブルのきのこ』(同朋舎出版)1993、などがあるだけで、フェアブルの著作の、ほんの一部にしかすぎません。今後の翻訳に期待をかけるとして、『昆虫記』にちょっと戻ってみましょう。

日本で最初に『昆虫記』10巻の翻訳を試みたのは大杉栄でした。残念ながら、大杉訳は第1巻のみとなってしまいましたが、残りの巻は小牧近江らが訳して、大正11年から昭和6年にかけて叢文閣より出版されました。「昆虫記」という言葉を造り出したのは、大杉栄ではないかと考えていますが、もう少し調査をしないと確信は持てません。どなたか調べてみる気はありませんか。(当館司書・土屋定夫)